

# 私たちが 移住家族！ パパは 新米和尚さん



子どもたちは  
羽尾のみなさんに  
育ててもらっています

2年前、夜須町羽尾の集落に新しい家族が増えました。集落の人口は11世帯、20人になり、地域に子どもたちの声が響くようになったうれしい話題を紹介します。

担当 広報編集委員 田中 たい子

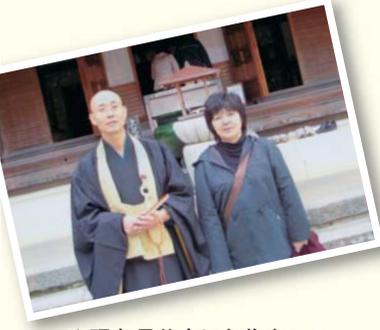
## 人生の大逆転

移住してきたのは竹井一也さん、歌織さん、清香ちゃん一家。昨年郁花ちゃんが生まれ、4人家族になった。

羽尾大釜荘の仕事をしてきた歌織さんが土佐清水市へ移住しようとしていた時、土佐清水市の職員で移住担当だったのが一也さん。移住の相談中に歌織さんと意気投合、2ヶ月で結婚を決めたという。

早速、歌織さんの両親であり長谷寺和尚の小林玄徹さんと礼子さん（現在の師匠夫妻）に挨拶に行くことに。

「最初、玄徹さんは自分が和尚だと一言も言わなかったけど、知らなかった！2人のことを否定するわけでもなく、移住して来いと言われたわけでもなかったんだよ。ただ、なんか、住職になるのもいいな、と思うたんです」



▲現在長谷寺にお住まいの小林玄徹さん、礼子さん

と、香川県出身の一也さん。

幡多弁混じりのお国なまりがなんとも親しみを覚える。土佐清水に移住するはずが、なんと、土佐清水から羽尾へ移住してくるという展開になった。

2人の結婚式は長谷寺で行われた。（娘の清香ちゃんが、写真をこっそり見せてくれた。そして、私を秘密基地に連れて行ってくれた）

## 地域の人のやさしさ

毎日市営バスで夜須小学校に通う清香ちゃん。羽尾からは片道約40分かかる。運転手さんとはすっかり仲良しで、居眠りしていても安心。忘れ物もちゃんと届けてくれる。

かわいい住人を心より喜んで受け入れてくれたのは、羽尾の地元の人たち。地域に子どもがいることが数十年ぶりだ。学

▼いいじ（玄徹さん）と作った秘密基地。素敵なおうちに招かれました



校から帰る時間になると、どこからともなく様子を見ていて、声をかけてくれる。

## 移住してきたから見えるもの

「まさか自分がこんな山の中で生活をするとは思ってもよらなかった。移住してきた者と、地元の人との間には、温度差は必ずある。でも、よそから来た立場の者には、それなりの役割があるんよね。その程よい関係がいいと思う」

4月8日の「長谷寺花まつり」のあと、新米和尚パパは、修行の旅に出かける。「残った家族の方も修行やね」と、歌織さんを気遣う一也さん。  
9月にはまた新しい家族が誕生する。今は今まで生きてきた中で、いちばん幸せなんだぞうだ。



▲パパはもとバスケットボール選手



▲冬眠から目覚めたばかりのカエルくんと友だちに



長谷寺  
花まつりの  
関連記事は  
16ページ

## 編集後記

▼秘書広報係、5年目突入。次の号は時間の余裕をもつて作成するぞー！と思いつつ、いつも間際になってバタバタ。今年度の目標、笑顔で余裕をもってこつこつ。（猪）  
▼取材で自分が通っていた小学校へ。椅子つてこんな小さな小きかつたらけ？体育館つてこんな狭かつたらけ？身長が伸びて視点も違うんだろうけど、その分何かも一緒に無くしてさうな？（た）  
▼花粉症の季節です。先日、三宝山を歩いたのですが、桜がきれいに咲いていました。花粉症に怯え、出不精になりがちですが、この時期ならではの桜は必見です。（工）  
▼広報にきて今年で6年目。いつの間にか古株になっている私ですが、広報作成はまだまだ勉強することばかり。4月から、ますますパワーアップした広報をお届けできるように頑張ります！（あ）

広報 広報紙  
スマホで  
広報を見よう  
i 広報紙アプリの  
ダウンロードは  
こちらから

《広報へのメール》  
kouhou@city.kochi-konan.jp  
《香南市のホームページ》  
http://www.city.kochi-konan.jp